



海軍公報 第四九一五號

昭和二十年一月二十七日(土)
海軍大臣官房

○令 達

達第一七號

配分變更ニ依リ陸軍ヨリ返還ノ輸送艦三隻ヲ左ノ通命名ス

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣 臣

川南工業株式會社浦崎造船所ニ於テ建造

第四百四十五號輸送艦 (舊第一五四五號艇)

第四百四十六號輸送艦 (舊第一五四六號艇)

第四百四十七號輸送艦 (舊第一五四七號艇)

達第一八號

海軍工員戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十六日

海軍大臣 臣

第二十條ノ三 戰地外ニ在ル工員ニシテ所屬艦ノ防護團員ト

シテ當該指揮官ノ命ニ依リ防空任務ニ從事シ左ノ各號ノ一ニ

該當スル場合ハ防空手當トシテ一夜ニ付五十錢ヲ支給ス

一 終業時限後引續キ勤務シ午後八時以降ニ及ビタルトキ

二 終業時限後翌朝起業時限迄ノ間ニ登艦シ勤務シタルトキ

前項ノ一夜トハ終業時限後翌朝起業時限迄ノ間ヲ謂フ

附 則

本達ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集三一頁

内令第四九號

驅逐艦 楠

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

驅逐艦 柳

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

昭和二十年一月十八日

海軍大臣 臣

内令第五〇號(軍機秘海軍公報第六九號(甲配付)ニ掲載)

内令第五一號

驅逐隊編制中左ノ通改定セララル

昭和二十年一月二十日

海軍大臣 臣

第五十二驅逐隊ノ項中「檜、」ノ下ニ「楓、」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁參照)

内令第五二號

海防隊編制中左ノ通改定セララル

秘海軍公報 第四九一五號 昭和二十年一月二十七日

1679

<p>昭和二十年一月二十日 海軍大臣 第十一海防隊ノ項中「第五號、」ノ下ニ「第三十六號、」ヲ加フ 第十二海防隊ノ項中「第四十六號」ノ下ニ「第三百三十二號」ヲ加フ (内令提要卷一、七三頁参照)</p>	<p>内令第五三號 右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル 吳鎮守府在籍 第一百二號海防艦</p>	<p>右警備海防艦ト定メラル 横須賀鎮守府豫備特務艦 特務艦 宗 谷</p>	<p>右在役特務艦ト定ム 昭和二十年一月二十日 海軍大臣</p>	<p>内令第五四號 昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年一月二十日 海軍大臣</p>
<p>第二十五魚雷艇隊ノ項中「471」ヲ削ル 第二十六魚雷艇隊ノ項中「850」ノ下ニ「^(舞)530^(舞)531^(舞)534^(舞)538^(舞)539^(舞)540^(舞)541」ヲ加フ 第三十一魚雷艇隊ノ項中「530 531 534 538 539 540 541」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ二七頁参照)</p>	<p>内令第五五號 昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年一月二十日 海軍大臣</p>	<p>第十六警備隊ノ項魚雷艇ノ欄ニ「第四百七十一號(佐)」ヲ加フ (内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)</p>	<p>内令第五六號 昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス 昭和二十年一月二十日 海軍大臣</p>	<p>大湊防備隊ノ項特設捕獲網艇ノ欄「菊丸(横)」ヲ削ル 紀伊防備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第五長勝丸(吳)、第三盛松丸(吳)、第五高尾丸(吳)、松生丸(吳)、第三正丸(吳)、第五福壽丸(吳)」ヲ削ル (内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)</p>

内令第五七號

横須賀領守府所管

特設捕獲網艇 菊丸

右特設病院船ト改ム

吳領守府所管

特設監視艇 第五長勝丸

同 第三盛松丸

同 第五高尾丸

同 松生丸

同 第三正丸

同 第五福壽丸

右横須賀領守府所管ト改ム

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

内令第五八號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

第一監視艇隊ノ項中「みゆき丸」ノ下ニ「第三盛松丸、松生丸」ヲ加フ

第二監視艇隊ノ項中「海和丸」ノ下ニ「第五長勝丸、第五高尾丸」ヲ加フ

第三監視艇隊ノ項中「新南丸」ノ下ニ「第三正丸、第五福壽丸」ヲ加フ

秘海軍公報 第四九一五號 昭和二十年一月二十七日

丸」ヲ加フ

(内令提要卷一、一五一頁参照)

内令第五九號

汽船 筑紫丸

右特設潜水母艦トシ佐世保領守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

内令第六〇號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

船舶名	特設艦船種別	所管
汽船 筑紫丸	特設運送艦	佐世保領守府

官房軍第三九號

當分ノ間領海海兵團行嚴施設ハ之ヲ部内限リ領海海兵團行嚴分團ト呼稱スルコトヲ得

昭和二十年一月二十六日

海軍大臣

○通牒

九三

兵備四機密第四五號

昭和二十年一月二十四日

海軍省兵備局長

各廳長 殿

特別召集解除ノ事務處理ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通陸軍省兵務局長ヨリ通牒有之候條可然
取計相成度

(別紙)

兵備第二四號

特別召集解除ノ事務處理ニ關スル件通牒

昭和二十年一月十二日

陸軍省兵務局長

海軍省兵備局長 殿

特別召集解除ハ軍隊ノ志氣、團結上支障大ナルノミナラス動員
補充業務上ニ及ホス影響大ナルモノアルニ鑑ミ一般ニハ一切詮
議セサル件ニ就テハ屢々通牒セラレタルトコロナルモ戰時召集
延期候補者ノ選定並ニ配置カ總動員上ノ要請、緊要度ニ適應セ
ス又之カ選定適正ヲ缺ク等戰時召集延期事務處理ノ缺陷ニ基因
シ當然戰時召集延期者タリ得ヘキ資格アル者ニ付豫メ其ノ手續
ヲ了シアラス一度召集ヲ令セラルルヤ急速之カ特別召集解除ヲ
申請スルモノ未タ其ノ跡ヲ絶タルハ甚ク遺憾トスルトコロナ
リ

昭和十九年陸密第五一七三號ヲ以テ戰時召集延期ニ關スル事務
處理要領ヲ一部改正セラレタル所以ハ右缺陷ヲ是正セントセラ

レタルニ外ナラス

自今戰時召集延期ノ運用ヲ前述ノ趣旨ニ合致セシムヘキハ勿論
豫メ戰時召集延期ノ手續ヲ了シアラサル者ノ特別召集解除ヲ申
請スルニ方リテハ凡テ戰時召集延期候補者配當人員數ノ範圍内
ニ於テ變更スルヲ原則トシ且現ニ戰時召集延期者ト決定シア
ル者中削除スヘキ者ヲ併セ通報スル如ク取計ハレ度通牒ス

○雜款

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月	電 話	記 事
高雄海軍航空隊發務整理班	虎尾海軍航空隊發務中分遣隊内	三月一日		三月一日解除
廣島海軍監督官松山田張所	松山市三津口町四倉敷工業株式會社松山兵器製作所内	一月七日		
第三千十四設營隊	第一海軍航空廠内	二月八日		

○本日軍極秘海軍公報第六八號(乙配付)及同第六九號(甲配付)發行セリ

乙配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍入事部、
關係各學校、吳海軍工廠、石垣島、宮古島各警備隊、大島防備隊

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九一六號

昭和二十年一月二十九日

海軍大臣 鹿屋

房

接

○令 達

内令第六一號

特設海軍補充部ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

佐世保鎮守府 聯合艦隊 第六海軍補充部 高雄

(内令提要卷一、三八ノ六〇頁参照)

内令第六二號

特設海軍補充部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

第二條表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

第六海軍補充部 臺灣及南支方面行動及所在ノ各部

(内令提要卷一、三八ノ五九頁参照)

内令第六三號

右本籍ヲ大阪警備府ト定ム

昭和二十年一月二十二日

海軍大臣

第二百四十六號驅潛特務艇

内令第六四號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十二日

海軍大臣

第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百四十五號(佐)」ノ次ニ「第二百四十六號(阪)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第六五號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

輸送艦、二等第百一號型ノ項中「第百四十四號」ノ下ニ「第百四十五號、第百四十六號、第百四十七號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

秘海軍公報 第四九一六號 昭和二十年一月二十九日

九五

1683

○通 牒

海入一第九號ノ九

昭和二十年一月二十六日

海軍省人事局

部内各廳御中

新任士官並ニ同見習尉官ニ對スル現役海軍士官名簿電報符ノ件通知

本月二十日任用セラレタル海軍軍醫科、藥劑科及齒科醫科士官並ニ昨年九月三十日任命ノ海軍軍醫見習尉官ニ對スル電報符ヲ左記ノ通定メラレ候

記

海軍軍醫中尉長岡 浩「外二八一四」、海軍軍醫少尉正林陽高「外三二七八」、海軍軍醫見習尉官吉田全次「外三六八〇」、同城所達士「外三六八一」、同石部恒久「外三六八二」、同大川武雄「外三六八三」、同廣瀬輝彦「外三六八四」、海軍藥劑中尉奥井誠「外一六三三」、海軍藥劑少尉鬼頭信一「外一八七」、海軍齒科醫少尉木村 肇「外一六三三」トシ各任命順序ニ從ヒ順次相當番號ヲ付與ス

經給機密第一四號

昭和二十年一月二十六日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

九六

見習工員同成業者ノ給料等級ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十九年經給機密第四一號中左記ノ通改正ス
追テ第二號ノ改正ハ昭和二十年度以降採用ノ見習工員付之ヲ適用スル義ト了知相成度

記

二 見習工員成業時ノ給料等級ハ左ノ平均給料以內ニ於テ各人毎ニ適當ナル差等ヲ付スルモノトス
内地所在各廳 一圓一〇錢
朝鮮、臺灣、關東州所在各廳 九五錢

三 見習工員成業時後誓約期間満了時迄ハ毎定期昇級ニ平均一級一般配付豫算外ニ於テ昇級セシムルモノトス
見習工員誓約期間満了ノ際ハ平均四級以內ニ於テ各人毎ニ適當ナル差等ヲ付シ昇級セシムルモノトス
(參照) 海軍機密會計法規類集三五三頁

航本機密第八六四號

昭和二十年一月二十七日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

航空兵器修理検査並ニ引換検査査定處理ニ關スル件照會

艦船部隊供給並ニ海軍航空廠在庫ノ航空兵器ノ修理並ニ引換檢

二 秘密航空圖誌														
種別	舊番號	新番號	圖誌名	刊行年月	備考	〇 雜誌							備考	
雜圖	水路部軍機 一五五一	氣象部軍機 〇一四	日本近海航空氣象圖	一〇一五 (昭和)										
假製圖	軍極秘 九〇一	軍極秘 三一三	支那航空氣象圖 (自昭和二十一年三月至) 自昭和二十一年五月	一四一三 (昭和)										
			支那航空氣象圖 (自昭和二十一年八月至) 自昭和二十一年九月	一四一五 (昭和)										
			支那航空氣象圖 (自昭和二十一年一月至) 自昭和二十一年二月	一四一〇 (昭和)										
			支那方面ノ上層風圖	一五二三										
			海軍高層氣象月報 (假製) 以降	一一一二										
			海軍高層氣象年報 (假製)	一四一七										
三 普通圖誌														
種別	舊番號	新番號	圖誌名	刊行年月	備考	〇 雜誌							備考	
雜圖	六〇三〇A	氣象部圖誌 六〇三A	北太平洋氣象圖一月分	六一二二 (昭和)										
	B	B		大〇一五 (昭和)										

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	附	事
第五十七號海防艦艇裝員事務所	一月一六日		
驅逐艦柳瀬裝員事務所	一月一八日		
驅逐艦橋本裝員事務所	一月二〇日		
第百二號海防艦艇裝員事務所	一月二〇日		

○轉勤者旅行先

自今當隊宛轉勤者ハ左ニ依リ旅行セシメラレ度

鹿兒島縣給良郡國分町

國分航空基地(日豊線國分驛下車)

第七〇一海軍航空隊

(攻撃第一〇三飛行隊)

(攻撃第五飛行隊)

千葉縣木更津市

木更津航空基地

(偵察第三飛行隊)

鹿兒島縣肝屬郡申良町

申良航空基地(古江線申良驛下車)

(攻撃第二五六飛行隊)

(第七〇一海軍航空隊)

大東亞戰爭戰歿者故海軍中將貝塚武男外諸勇士ノ合同海軍葬儀ヲ來二月五日一〇〇〇横須賀市海軍靈安所ニ於テ佛式ニ依リ執行ス

○本日海軍公報發行セズ

秘海軍公報 第四九一六號 昭和二十年一月二十九日

航空兵器修理検査並ニ引換検査査定用語及其ノ標準並ニ處理要領書		修理検査	引換検査	處理	航空廠	記事		
不調	取止	施行			引換検査 査定決定標準	引換請求元應	航空廠	記事
		(他廠)	(廠内)	(廠外)				
故障欠損ノ程度大ニシテ修理復舊ノ見込ナク廢品トスルヲ適當ト認メタル場合	検査ノ結果修理ノ必要ナシト認メタル場合	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノニシテ航本指令ニ依ル工作應修理區分ニ基キ他廠ノ修理ニ屬スル場合	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノヲ廠内ニ持込修理施行ノ場合	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノヲ供給セズ修理施行ノ上返還スルモノ若クハ代品ト引換ヲ必要トスルモノ在庫ナク且ツ入手ノ見込モナク役務行動上至急修理ノ上返還ヲ必要トスル場合等	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノニシテ代品ヲ供給セズ修理施行ノ上返還スルモノ若クハ代品ト引換ヲ必要トスルモノ在庫ナク且ツ入手ノ見込モナク役務行動上至急修理ノ上返還ヲ必要トスル場合等	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノヲ供給セズ修理施行ノ上返還スルモノ若クハ代品ト引換ヲ必要トスルモノ在庫ナク且ツ入手ノ見込モナク役務行動上至急修理ノ上返還ヲ必要トスル場合等	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノニシテ代品ヲ供給セズ修理施行ノ上返還スルモノ若クハ代品ト引換ヲ必要トスルモノ在庫ナク且ツ入手ノ見込モナク役務行動上至急修理ノ上返還ヲ必要トスル場合等	故障欠損ノ程度修理工事ニ依リ復舊シ得ルモノニシテ代品ヲ供給セズ修理施行ノ上返還スルモノ若クハ代品ト引換ヲ必要トスルモノ在庫ナク且ツ入手ノ見込モナク役務行動上至急修理ノ上返還ヲ必要トスル場合等
不調	引換取止	修理	引換	引換請求元應	航空廠	記事		
故障欠損ノ程度大ニシテ修理復舊ノ見込ナク廢品トスルヲ適當ト認メタル場合	検査ノ結果廠内修理ニテ復舊シ得ルモノニシテ引換ノ要ナキモノ	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品到着後速ニ修理ヲ實施ス 二 修理完成後直ニ請求元應ニ送付ス 三 必要ニ依リ工事關係者ヲ派遣シ所要工事ヲ實施セシム	一 修理ト査定セラル損品ニ對シ修理擔當部トノ關係ハ補給部(科)ニテ手續ヲ行フモノトス 二 修理(廠外)トセルモノノ所在箇所ヲ明記スルコト	一 必要ニ依リ不調(造材)又ハ假査定シ申請承認ヲ求メタル上處理ス 二 不調兵器ハ造材、教材、賣却、棄却、燒却保存トシ保存以外ノ兵器部品ニシテ使用シ得ルモノハ分離シ補用品ニ組替ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス 三 必要ニ依リ工事關係者ヲ派遣シ所要工事ヲ實施セシム
不調	引換取止	修理	引換	引換請求元應	航空廠	記事		
故障欠損ノ程度大ニシテ修理復舊ノ見込ナク廢品トスルヲ適當ト認メタル場合	検査ノ結果廠内修理ニテ復舊シ得ルモノニシテ引換ノ要ナキモノ	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス	一 損品到着後速ニ修理ヲ實施ス 二 修理完成後直ニ請求元應ニ送付ス 三 必要ニ依リ工事關係者ヲ派遣シ所要工事ヲ實施セシム	一 修理ト査定セラル損品ニ對シ修理擔當部トノ關係ハ補給部(科)ニテ手續ヲ行フモノトス 二 修理(廠外)トセルモノノ所在箇所ヲ明記スルコト	一 必要ニ依リ不調(造材)又ハ假査定シ申請承認ヲ求メタル上處理ス 二 不調兵器ハ造材、教材、賣却、棄却、燒却保存トシ保存以外ノ兵器部品ニシテ使用シ得ルモノハ分離シ補用品ニ組替ス	一 損品ヲ航空廠ニ送付ス 二 修理完成品ヲ受領ス 三 必要ニ依リ工事關係者ヲ派遣シ所要工事ヲ實施セシム

秘

海軍公報 第四九一七號

昭和二十年一月三十日(火)

海軍大臣官房

第20號

○通牒

官房備機密第一四號

昭和二十年一月二十七日

海軍省副官

關係各廳長殿

陸海軍ノ警察用、鐵道用電信及電話ノ優先利用ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ同乙號及丙號ノ通回答有之候條了知相成度

(別紙甲號)

陸亞密第一〇四〇號

陸海軍ノ警察用、鐵道用電信及電話ノ優先利用ニ關スル件照會

昭和十九年十月二日

陸軍次官
海軍次官

內務次官
運輸通信次官

警備ノ萬全ヲ期スル爲必要ナルニ付左記ノ場合ニ於ケル軍ノ優先利用ニ關シ至急措置相煩度照會ス

秘海軍公報 第四九一七號 昭和二十年一月三十日

左記

- 一、使用ノ時機
敵ノ上陸、空挺隊ニ依ル攻撃、艦艇ヨリスル砲(擧)撃實施ノ場合及此等ノ危險アル時
- 二、使用ノ地域
本土全域ニシテ他ニ利用スヘキ軍通信施設無キカ又ハ其ノ使用不能ノ地域トス

(別紙乙號)

內務省陸警第一八號

昭和十九年十月二十五日

內務次官

陸軍次官
海軍次官

陸海軍ノ警察電話優先利用ニ關スル件回答

本年十月二日陸亞密第一〇四〇號照會標記ノ件當方ニ於テハ異存無之候條及回答候也

追而管下廳府縣ニ對スル手配ニ付テハ追テ通報可致ニ付爲念

發警第一二三號

昭和十九年十一月十一日

一〇一

1689

内務次官

警視總監 殿
廳府縣長 官

非常事態發生時ニ於ケル軍用警察用通信ノ相互利用ニ關スル件

警備ノ萬全ヲ期スル爲敵ノ攻撃、空襲、災害、騷擾其ノ他非常發生ニ際シ軍用、警察用通信ノ相互利用ニ關シテハ別紙通牒寫ノ通協議決定相成候ニ付之ガ實施上萬遺憾ナキヲ期セラレ度、追而警察ノ軍通信利用ニ當リテハ通信室等ノ出入ハ軍作戦上支障アル場合不尠趣ニ付電話通信文案ヲ軍ニ委託シ通信スル等ノ方法ヲ原則トスルコトト致度

(別紙丙號)

鐵業總第一〇四四號

昭和十九年十一月七日

運輸通信次官

陸軍次官 殿
海軍次官 殿

軍ノ警備ニ鐵道專用通信供用ニ關スル件

昭和十九年十月陸亞密第一〇〇四〇號及官房備機密第五七九號照會ノ鐵道用通信及電話ノ優先利用方ニ關シテハ鐵道專用通信ノ最先順位タル鐵道防空第一通信ト同順位ニ依ルコトトシ左記(別紙)ノ通鐵道局長ニ通牒致置候條了承相成度

鐵業總第一〇四四號

昭和十九年十一月七日

鐵道總局業務局長
鐵道總局施設局長

各鐵道局長 殿 (除樺太)

軍ノ警備ニ鐵道專用通信供用ニ關スル件

今敵陸、海軍兩次官ヨリ警備ノ爲鐵道用通信及電話ノ優先利用方ニ關シ別紙ノ通照會有之候處本件ノ内容ハ事柄メテ重大ナルモノナルヲ以テ總動員警備要綱第二十三條ニ拘ラス左ニ依リ鐵道專用通信施設ヲ供用スルコトト相成其ノ旨軍ニ回答致置候條了知相成度

記

- 一 鐵道電話ヲ使用セシムルトキハ關係驛所ノ責任者ニ於テ其ノ使用方ヲ指示スルコト
 - 二 警備通信ノ取次ヲナストキハ通信事項ヲ記載シタル文書ニ依リ錯誤ナキヲ期スルコト
 - 三 通信連絡ニ依ル警備通信ノ取次ハ之ヲ爲ササルコト
 - 四 通信取次驛所ニハ必要ノ都度軍ヨリ連絡員ヲ派遣セシムルコト
 - 五 警備通信ノ取扱方ハ左ニ依ルモノトス
1. 通信取扱順位 鐵道防空通信ノ第一通信ト同順位ニ依ル

- コト
2. 電信ニ依ル場合
 - イ 便宜鐵道電報トシテ取扱フコト
 - ロ 本電報ニハ「ダケ(軍警備)」ノ記事ヲ添付スルコト
 - ハ 喚呼方ハ鐵道電報取扱細則第六十五條ヲ準用スルコト
 8. 電話ニ依ル場合
 - イ 便宜鐵道通話トシテ取扱フコト
 - ロ 通話ノ申込ハ冒頭ニ「軍警備」ト唱フルコト
 - 六 他ノ鐵道局ニ關係ヲ有スル場合ハ相互協議スルコト
 - 七 本件ニ關シ軍ト協定シタル事項及取扱方ニ關シ定メタル事項ハ本省ニ報告スルコト

教育機密第三三號

昭和二十年一月二十二日

海軍省教育局長

各領守府參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長 殿
聯合艦隊參謀長 殿
海軍下士官候補者教育ニ關スル件申改正ノ件
申進

昭和十九年教育機密第一四八號ニ依ル首題ノ件左ノ通改正セラレ候
第一號ノ次ニ左ヲ加ヘ第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下グ
二 教育場所

秘海軍公報 第四九一七號 昭和二十年一月三十日

種別	特修兵				以外ノ者	記
	横須賀守府	吳守府	佐世保守府	舞鶴守府		
鎮守府別	横須賀守府	吳守府	佐世保守府	舞鶴守府	同	一 狀況ニ依リ在籍鎮守府別ニ拘ラズ適宜ノ海兵團ヲ指定シ教育セシムルコトアリ 二 飛行兵及整備兵ハ別ニ定ムルヲ實施ス
教育場所	横須賀海兵團	吳海兵團	佐世保海兵團	舞鶴海兵團	各關係學校海軍病院練習部又ハ海軍其ノ都度之ヲ定ム	

(内令提要卷三、四八四ノ二参照)

航本機密第六二四號

昭和二十年一月二十日

海軍航空本部總務部長

關係各廳長 殿

「アルコール」燃料使用ニ對スル氣化器調整ニ關スル件申進
首題燃料使用時ニ於ケル氣化器調整ニ關シテハ左記ニ依リ實施方取計相成度
記

發動機名稱	使用燃料	調	整	記	事
天風一型 (九三載中)	コール	主調量子流量 綫速調量子流 「エ」初動點	三〇〇 ^分 四〇〇 ^分 3/10 ^分 校弁開度	一月二十一日 第六五三號 參照ノコト	
天風二型 (自翁搭載)	コール	主調量子流量 綫速調量子流	三〇〇 ^分 二〇〇 ^分	一月二十一日 第六五二號 參照ノコト	
善二型改二 (九〇機載)	コール	主噴口日盛 「エ」日盛 綫速調整	(+) (+) 全閉ヨリ九回 轉浪		

○ 雜 款

○司令海防艦指定
第二十二海防隊司令ハ一月二十日司令海防艦ヲ第五十二號海防艦ニ指定セリ

○正誤
一月二十一日附秘海軍公報第五〇八五號令達欄官房經第三六號中「第二十四條」ハ「第二十四條ノ二」ノ誤

○本日海軍公報發行セズ

備考	部		軍												海軍施設本部	海軍航空本部	文庫		電信課		經理局														
	主計兵	機兵	機兵	兵	又下兵	兵	又下兵	水兵	主計兵	又下兵	兵	水兵	兵	兵	主計兵	機兵	機兵	衛生兵	整備兵	整備兵	又下兵	又下兵	兵	兵	主計兵	主計兵	主計兵	主計兵	兵	主計兵	主計兵				
	曹(掌理兵)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(掌電信兵)	曹(特修兵適宜)	曹(掌電信兵)	曹(特修兵適宜)	曹(掌電信兵)	曹(掌暗號兵)	曹(特修兵適宜)	曹(掌暗號兵)	曹(掌暗號兵)	曹(掌暗號兵)	曹(掌暗號兵)	曹(掌暗號兵)	曹(掌暗號兵)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(特修兵適宜)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)	曹(掌電信兵)				
一	二	二	六	一	五	二	一三	二	七	一	一七	三	四	一	三一	九	二	二	五	一	二	一	六	二	七	三七	六	一	一	二	六	三	一	一	二
横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府	横須賀鎮守府
職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ	職力補給部ニ充ツベキモノ

一 本表ノ人員ハ軍港名ヲ冠稱スル海兵團(補缺員)ヨリ派遣セシムルモノトシ夫々派遣先廳ニ於ケル事務補助ニ充ツベキモノトス

二 派遣セラレタル者ノ人事取扱ニ關シテハ海軍武官任用進級取扱規則第三條ノ区分ニ從ヒ當該勤務廳ノ披擯名簿調製官ハ所轄長ノ職務ヲ執行スルモノトス

秘

海軍公報 第四九五六號

昭和二十年三月十三日
海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ六
第二十五根據地隊ニ臨時軍法會議ヲ置ク
昭和十八年海軍省告示第一號ノ九ハ之ヲ廢止ス
昭和二十年三月十日
海軍大臣

(參照) 昭和十八年海軍省告示第一號ノ九ハ第四南遣艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置クノ件ナリ

海軍省告示第一號ノ七
第二十五根據地隊臨時軍法會議ヲ第四南遣艦隊軍法會議ノ後繼軍法會議ニ指定ス
昭和二十年三月十日
海軍大臣

○令 達

達第四一號
海軍工機學校規則左ノ通改正ス
昭和二十年三月一日
海軍大臣

海軍機關學校規則

第一條 橫須賀海軍機關學校及大楠海軍機關學校ハ左ノ各號ニ依リ海軍機關學校令第一條第二項ニ規定スル事項ヲ分擔スベシ

一 橫須賀海軍機關學校
機關術(內火機關、電力機關及補助機械ニ關スル事項ヲ除ク)ノ研究實驗及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査

二 大楠海軍機關學校
機關術(內火機關、電力機關及補助機械ニ關スル事項)ノ研究實驗及其ノ教育ノ規畫ニ關スル研究調査

第二條 橫須賀海軍機關學校及大楠海軍機關學校ハ機關術ノ教授及研究、實驗ニ關シ互ニ連絡ヲ密ニシ機關術ノ完全ナル融合發達ヲ圖ルベシ

第三條 校長ハ教務規程其ノ他執務ニ關スル細則ヲ設ケ橫須賀鎮守府司令長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ實施スベシ但シ教務規程ニ關シテハ橫須賀鎮守府司令長官ハ之ヲ認可スルニ先テ海軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 海軍機關學校ノ紀律ハ軍艦ノ例ニ準ズ

第五條 海軍機關學校令第六條ノ規定ニ依リ校長ノ職務ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第六條 校長ハ教頭ヲシテ軍艦ノ例ニ準ジ學校勤務ノ下士官及

秘海軍公報 第四九五六號 昭和二十年三月十三日

二六五

1695

兵竝ニ練習生ヲ統率セシムベシ

第七條 校長ハ機關術ノ事ニ關シテハ第一條ニ定ムル擔當區分ニ依リ海軍各部ト連絡ヲ保チ研究部長以下ヲシテ之ヲ研究、實驗及調査ニ從事セシメ左ノ事項ニ關シテハ各其ノ擔當區分ニ從ヒ案ヲ具シ直接海軍大臣ニ提出スベシ但シ第二號及第三號ニ關スル事項ハ提出ニ先チ橫須賀海軍機關學校及大楠機關學校ノ合同研究ヲ經ルコトヲ要ス

一 機關術ニ關スル訓練規則ニ依ル諸作業ノ實施成績ニ關スル所見及翌年度ノ計畫上必要ト認ムル事項
二 機關術ニ關シ研究及實驗シ得タル事項中特ニ必要ト認ムルモノ
三 操式教範又ハ機關術教育ノ規畫ニ關シ改正又ハ制定ヲ要スト認ムル事項

四 機關術年報、教育彙報、參考資料等

第八條 校長ハ機關術ノ事ニ關シ第一條ノ擔當區分ニ依リ艦船部隊其ノ他各部ヨリノ質疑ニ應ズルコトヲ得

第九條 校長ハ學生又ハ練習生ノ終業期ニ於テ教官ヲ會同シ教育ノ經過、成績及進歩並ニ學生又ハ練習生ニ關スル事項ヲ考察シ之ヲ記錄ヲ整理保存スベシ

第十條 校長ハ學生又ハ練習生ノ終業期ニ於テ其ノ卒業成績ニ意見ヲ附シ學生ニ在リテハ海軍大臣ニ、練習生ニ在リテハ横須賀鎮守府司令長官ニ進達スベシ
練習生ノ卒業成績順序ハ何人中ノ何番ナル字句ヲ用ヒ之ヲ木

人ノ考課調査表ニ記入スベシ

特務士官及准士官學生ノ卒業成績表並ニ練習生ノ學業考課表及卒業成績表ハ各其ノ在籍ノ鎮守府別ニ依リ之ヲ當該鎮守府司令長官ニ提出又ハ送付スベシ

第十一條 校長ハ毎教育年度ニ於ケル教育報告二通ヲ調製シ十二月二十日迄ニ橫須賀鎮守府司令長官ニ提出シ橫須賀鎮守府司令長官ハ之ニ意見ヲ附シ一通ヲ海軍大臣ニ進達スベシ

第十二條 高等科學生ノ召集ハ海軍大臣之ヲ告達ス
第十三條 所轄長ハ高等科學生召集ノ告達アリタル場合ニ於テ部下兵科將校中海軍機關學校令第十七條ノ規定ニ該當スト認メタル者アルトキハ高等科學生候補者トシテ其ノ名簿(別表第一)ヲ所屬長官ニ提出シ所屬長官適當ト認メタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ進達スベシ

第十四條 海軍大臣必要ト認ムルトキハ高等科學生候補者ニ就キ相當ノ考試ヲ行ハシム此ノ場合ニ於テハ海軍大臣ハ高等科學生候補者名簿ヲ直接橫須賀海軍機關學校長ニ下付シ校長ハ考試問題ヲ密封シ各所轄長ニ送付ス所轄長ハ考試ヲ行ヒ其ノ答解書ヲ校長ニ送付ス校長ハ之ヲ調査シ成績表ヲ直接海軍大臣ニ進達スベシ

前項ノ考試ハ各地同日ニ之ヲ行ヒ其ノ期日ハ考試問題ノ封筒ニ記スモノトス若シ特別ノ事情ニ依リ其ノ期日ニ考試ヲ行フコト能ハザルトキハ所轄長ハ問題漏洩ノ虞ナキ限り其ノ期日ニ拘ラズ考試ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ事情ヲ横

1696

須賀海軍機關學校長ニ通知スベシ

第十五條 海軍機關學校高等科學生及普通科學生ハ横須賀海軍
機關學校ニ入校スルモノトシ横須賀海軍機關學校長ハ別ニ定
ムル期間本學生ヲ大楠海軍機關學校ニ派遣修學セシムベシ

第十六條 海軍機關學校令第十八條ノ規定ニ依リ特修科學生ヲ
ランコトヲ志願スル者ハ兵科將校ニ在リテハ海軍大臣ニ、兵
科特務士官及機關科准士官ニ在リテハ在籍ノ鎮守府司令長官
ニ各順序ヲ經テ願書ヲ提出スベシ

第十七條 兵科特務士官及機關科准士官ヲ横須賀海軍機關學校
又ハ大楠海軍機關學校ノ特修科學生ニ採用スベキ員數及時期
ハ海軍大臣之ヲ告達ス

鎮守府司令長官ハ前項ノ告達ニ從ヒ前條ノ出願者中ヨリ選抜
シタル者竝ニ其ノ鎮守府在籍ノ兵科特務士官及機關科准士官
ニシテ特ニ機關科ヲ修習セシムルノ必要アリト認メタルモノ
ニ横須賀海軍機關學校又ハ大楠海軍機關學校特修科學生ヲ命
ズベシ

第十八條 特修科學生タル兵科特務士官及機關科准士官卒業シ
タルトキハ其ノ在籍ノ鎮守府ニ復歸セシムベシ

第十九條 學生ニシテ傷疾疾病其ノ他ノ事故ニ因リ同期學生ト
共ニ卒業セシムルコト能ハザルモノハ適宜ノ期間其ノ卒業ヲ
延期セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ校長ハ其ノ期間ヲ定
メ海軍大臣ノ認可ヲ受クベシ

第二十條 臨時講習ヲ行ハントスルトキハ講習科目及期間ヲ定
メ講習員ノ召集ト共ニ海軍大臣之ヲ告達ス

講習終リタルトキハ校長ハ講習報告ヲ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十一條 練習生ヲ左ノ六種ニ區別ス

一 普通科機關術練習生

二 高等科機關術練習生

三 普通科内火術練習生

四 高等科内火術練習生

五 普通科電機術練習生

六 高等科電機術練習生

第二十二條 普通科機關術練習生及高等科機關術練習生ハ左ノ
區分ニ依リ其ノ一ヲ專修セシム

一 掌主機械術

二 掌補助機械術

三 掌鑪術

第二十三條 普通科電機術練習生及高等科電機術練習生ハ左ノ
區分ニ依リ其ノ一ヲ專修セシム

一 掌發電機術

二 掌電動機術

三 掌蓄電池術

第二十四條 練習生ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ教育スルモノトス

横須賀海軍機關學校	大楠海軍機關學校
普通科機關術練習生 (掌主機械術)	普通科機關術練習生 (掌補助機械術)
普通科機關術練習生 (掌主機械術)	普通科内火術練習生
普通科機關術練習生 (掌主機械術)	普通科電機術練習生
高等科機關術練習生 (掌主機械術)	高等科機關術練習生 (掌補助機械術)
高等科機關術練習生 (掌主機械術)	高等科内火術練習生
高等科電機術練習生	高等科電機術練習生

第二十五條 普通科機關術練習生、普通科内火術練習生及普通科電機術練習生ハ海軍機關兵長若ハ海軍上等機關兵又ハ進級實役停年ヲ有スル海軍一等機關兵ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス但シ普通科内火術練習生(自動車班)ニ在リテハ同職階ノ海軍水兵又ハ整備兵ヨリ之ヲ選拔スルコトヲ得

一 品行方正ニシテ禁鋼以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 掌機兵、掌内火兵又掌電機兵ト爲スニ適當ナル性能及學力ヲ有スト認ムル者

三 海軍特修兵ニ非ザル者

第二十六條 高等科機關術練習生、高等科内火術練習生及高等科電機術練習生ハ海軍一等機關兵曹ニシテ進級實役停年ヲ有セザルモノ若ハ海軍二等機關兵曹又ハ任用實役停年ヲ有スル海軍機關兵長ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノノ中ヨリ之ヲ選拔ス

一 品行方正ナル者

二 掌機、掌内火又ハ掌電機ノ要務ヲ執ラシムルニ適當ナル性能及學力ヲ有スト認ムル者

三 普通科機關術練習生、普通科内火術練習生又ハ普通科電機術練習生教程ヲ卒業シタル日ヨリ一年以上勤務ニ服シ其ノ特技章ヲ有スル者

第二十七條 練習生ニ採用スベキ員數ハ鎮守府毎ニ區分シ毎年二月一日以前ニ於テ海軍大臣之ヲ告達ス

第二十八條 横須賀鎮守府司令長官ハ前條ノ告達ニ基キ翌會計年度ニ於ケル練習生ノ採用ヲ便宜一回又ハ數回ニ分テ其ノ出入豫定期日ヲ二月末日迄ニ變更アリタル際ハ其ノ都度海軍大臣ニ報告スベシ學生ノ豫定期日亦之ニ準ズ

第二十九條 普通科機關術練習生、普通科内火術練習生及普通科電機術練習生ヲ採用スルニハ横須賀鎮守府司令長官ハ前條ノ採用員數、入校期日其ノ他必要ナル事項ヲ他ノ鎮守府司令長官ニ通知スベシ

鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦船部隊其ノ他各部(當該鎮守府在籍下士官、兵ノ勤務スルモノ)ニ在リテハ其ノ所屬ノ如何ヲ問ハズ以下之ニ同ジ)ノ長ヲシテ練習生志願者ニ就キ身體檢査ヲ行ヒ又横須賀海軍機關學校長又ハ大楠海軍機關學校長ノ送付セル試験問題ニ依リ其ノ指定期日ニ於テ學力試験ヲ行ヒ第二十五條ノ規定ニ適合スル者ヲ横須賀海軍機關學校普通科練習生及大楠海軍機關學校普通科練習生ニ區分シテ

之ヲ選拔シ選拔表(別表第二)ヲ調製シ報告セシムベシ
 鎮守府司令長官ハ前項ノ報告ニ基キ艦船部隊其ノ他各部毎ニ
 採用者ヲ定メ入校期日ト共ニ之ヲ通達ス艦船部隊其ノ他各部
 ノ長ハ採用人名ニ所見表(別表第三)ヲ添ヘ之ヲ横須賀海軍
 機關學校長又ハ大楠海軍機關學校長ニ通知シ期日内ニ當該海
 軍機關學校ニ入校セシム艦船部隊其ノ他各部ノ長ハ其ノ出發
 前ニ於テ更ニ身體檢査ヲ行ヒ不合格ノ者アルトキハ之ヲ在籍
 鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ補缺採用ノ手續ヲ
 行フモノトス
 鎮守府司令長官ハ前項ノ規定ニ依リ練習生採用者ヲ定メタル
 トキハ採用人名及所屬ヲ夫々横須賀海軍機關學校長又ハ大楠
 海軍機關學校長ニ通知スベシ
 第三十條 高等科機關術練習生、高等科内火術練習生及高等科
 電機術練習生ヲ採用スルニハ横須賀鎮守府司令長官ハ第二十
 八條ノ採用員數及候補者選出期限、入校期日其ノ他必要ナル
 事項ヲ他ノ鎮守府司令長官ニ通知スベシ
 鎮守府司令長官ハ前項ノ通知ニ從ヒ艦船部隊其ノ他各部ノ長
 ヲシテ練習生志願者ニ就キ身體檢査ヲ行ヒ横須賀海軍機關學
 校長又ハ大楠海軍機關學校長ノ送付セル試験問題ニ依リ各其
 ノ指定期日ニ於テ學力試験ヲ行ヒ第二十六條ノ規定ニ當當ス
 ル者ヲ選拔シ所見表(別表第三)ヲ調製シ選出期限内ニ鎮守
 府司令長官ニ報告セシム
 鎮守府司令長官ハ更ニ選拔ヲ行ヒ所見表ト共ニ採用人名及所

屬ヲ横須賀海軍機關學校長又ハ大楠海軍機關學校長ニ通知シ
 艦船部隊其ノ他各部ノ長ヲシテ期日内ニ入校セシム艦船部隊
 其ノ他各部ノ長ハ其ノ出發前ニ於テ更ニ身體檢査ヲ行ヒ不
 合格ノ者アルトキハ之ヲ在籍鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府
 司令長官ハ補缺採用ノ手續ヲ行フモノトス
 第三十一條 練習生ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ校長
 之ヲ免シ理由ヲ附シ各其ノ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシメ
 且之ヲ各其ノ前所屬ノ艦船部隊其ノ他各部ノ長及在籍鎮守府
 ノ海軍人事部長ニ通知シ横須賀鎮守府司令長官ニ報告スベシ
 一 傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ卒業ノ見込ナキ者
 二 修業成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキ者
 三 勤務怠慢品行不正ニシテ練習生タルニ不適當ト認ムル者
 四 前各號ノ外練習生タルニ不適當ト認ムル者
 第三十二條 練習生ニシテ前條ノ規定ニ該當スルコトナク同期
 ノ練習生ト共ニ卒業セシムルコト能ハザルモノアルトキハ校
 長ハ同種ノ次期練習生ニ編入スルカ又ハ次期練習生卒業期迄
 ノ範圍ニ於テ適宜之方修業期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合
 ニ於テハ校長ハ之ヲ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ通知シ横須
 賀鎮守府司令長官ニ報告スベシ
 第三十三條 練習生卒業シタルトキハ在籍ノ鎮守府司令長官ノ
 指示スル艦船部隊其ノ他ノ各部ニ轉勤セシムルモノトス
 第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ艦船部隊其ノ他
 各部ニ轉勤セシムベキ者又ハ在籍鎮守府ノ海兵團ニ入團セシ

ムベキ者事故アリテ出發セシムルコト能ハザルトキハ最寄ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ各其ノ所屬ノ艦船部隊其ノ他各部ノ長及在籍領守府ノ海軍人事部長ニ通知スベシ

第三十五條 所轄長ハ海軍特修兵令第六條ニ依リ特技章ヲ褫奪シタルトキハ之ヲ本人在籍領守府司令長官ニ報告又ハ通報スルト同時ニ横須賀海軍機關學校長又ハ大楠海軍機關學校長ニ通知スベシ

第三十六條 海軍機關學校學生及練習生ハ之ヲ校内ニ起臥セシメ臨時講習科ヲ履修スル者ハ之ヲ通學又ハ校内ニ起臥セシム但シ學生ハ狀況ニ依リ之ヲ通學セシムルコトヲ得

第三十七條 校長ハ海軍各學校ノ學生又ハ練習生ニシテ本校ニ於テ修學スルモノアルトキハ其ノ修學ヲ終リタル後成績ヲ各其ノ所屬學校長ニ通報スベシ

第三十八條 毎年八月一日ヨリ八月三十一日迄ヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日迄ヲ冬季休業トス但シ校長ハ教務ノ都合ニ依リ横須賀領守府司令長官ノ認可ヲ得テ此ノ時期ヲ多少伸縮變更スルコトヲ得

第三十九條 學生及練習生ノ修業期間ヲ左ノ如ク種別ス但シ時宜ニ依リ多少伸縮セシムルコトアルベシ

- 一 高等科學生 一年
- 二 普通科學生 四月
- 三 特修科學生 六月乃至一年

- 四 專攻科學生 六月乃至一年
- 五 普通科機關術練習生 六月以内
- 六 高等科機關術練習生 九月以内
- 七 普通科内火術練習生 六月以内
- 八 高等科内火術練習生 九月以内
- 九 普通科電機術練習生 六月以内
- 十 高等科電機術練習生 九月以内

附則

本達ハ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本達施行ノ際従前ノ規定ニ依リ海軍工機學校ニ於テ現ニ修業中ノ練習生ハ之ヲ本達ニ依ル横須賀海軍機關學校練習生又ハ大楠海軍機關學校練習生トス
 従前ノ規定ニ依リ海軍工機學校各種練習生教程卒業ノ者ニシテ其ノ特技章ヲ有スルモノハ之ヲ本則ニ依ル當該練習生教程卒業ノ者ト看做ス
 (別表添)

内令兵第七號
 假稱二式十三耗旋回機銃一型ヲ兵器ニ採用シ二式十三耗旋回機銃一型ト呼稱ス
 昭和二十年三月十日

海軍大臣

(達第四一號別表第一)

(昭和二十年三月十三日秘海軍公報)

海軍機關學校高等科學生候補者名簿						(所轄名)	
現官任命年月日	現職	官等	氏名	身	體		
	「提出當時」 ノ「記註ス」モ	同上			「既往一年間」 ニ「引入療養セル」 「傷病名及」 「始後」		
					「他ノ體要」 「關スル」 「一般所見」 「ヲ記註シ」 「身檢査」		
					「爲シタル」 「軍醫科」 「上官捺印ス」		

(達第四一號別表第二)

(昭和二十年三月十三日海軍公報)

		(記ノ其ノ生上ヲニ同 入順ノ場ニノ二同一 ス序志合選練種一時 ヲ望ハ抜習以人期)	序 順 望 志
			序 順 拔 選
			印官科軍檢 捺士醫杏 ⑩ 體身
			日 月 年 級 進 職 現
		(ス入記テ以ヲ字數洋)	年 停 役 實 級 進
			日 月 年 期 滿 役 現
		(ス記カナ何人クノ35新六 入ヲル番中何如兵五)	績 成 業 卒 兵 新
		(ス入記ク如ノ修三中卒小高)	歴 學 ノ 前 籍 入
			書 ； 讀 ； 試 驗 成 績
		(ス入記ヲ比百分點得驗試)	術 ； 算 ； 均 ； 平
			賞 ； 罰
		(ス書朱ハ罰)	賞
		ス別認内掌械ハニ術學海一 ベヲム適離ノ掌在練校軍横 シ記ル當衛又主リ習機機須 一入區トノハ機テ生關關費	歴 經
			置 配 現
		(ス入記テ以ヲ語評)	務 勤 考 ； 行 性 ； 能 技 課
		(ス記ノル認ズニ他其體武技學 入ヲモムト長特ノ技技藝術)	能 技 課
		(ス入記ニ明簡ニ的括總)	評 總 物 人
			名 職
		(スモ月校モ指年名名數入當志 ノ末ノ定齡ヲニ記シ該望 ヲ日ノシハ附ハ入夕期回 記迄ノ外夕特ス振入スヲ數 入ノ前入ルニ假氏回算ハ)	年 氏 志 望 ； 齡 名 回 數
			號 番 籍 入

() 内ハ記註例ヲ示ス (以下之ニ同シ)

第 期 普 通 科 術 練 習 生 候 補 者 選 拔 表

(何々艦長) (某)

(達第四一號別表第三)

第 期 科 術 (掌 識 術)		練 習 生 候 補 者 所 見 表		所 轄 名		所 轄 門 (艦 軍)	
選 拔 順 序	身 體 檢 査 官 印 (士 軍 醫 官)	練 習 生 (新 兵) 卒 業 年 月 日 及 其 績	勤 務 日 數	試 験 成 績	分 隊 長 又 ハ 分 隊 長 職 務 執 行 者 所 見	科 長 所 見	所 轄 見 長
(記 入 ス 如 ク)	長 身	(最近卒業ノモノニ就キ左例ノ如ク記入ス 「八五〇、六〇期普機」 「掌識術」)	(高等科練習生ニ在リテハ普通勤務) 日數ヲ記入ス	(各試験科目毎ニ百分比) ヲ記入ス	勤 務 (評語ヲ以テ記入ス)	勤 務 (評語ヲ以テ記入ス)	昭和 年 月 日
志 望 者 數	試 験 施 行 者 數	現 官 職 進 級 日 月 日	現 役 満 期 日 月 日	檢 定 成 績	性 行	性 行	
志 望 者 數	試 験 施 行 者 數	同 一 時 期 以 上 同 一 種 別 者 數	同 一 時 期 以 上 同 一 種 別 者 數	(最近三回ノ成) 績ヲ記入ス	能 技	能 技	
志 望 者 數	試 験 施 行 者 數	當 該 期 回 算 入 籍 前 入 籍 學 歴	當 該 期 回 算 入 籍 前 入 籍 學 歴	(現 置 以 外 其 他 附 記) 置 配	賞 罰	賞 罰	
志 望 者 數	試 験 施 行 者 數	高 小 卒 如 ク	高 小 卒 如 ク	(罰ハ朱書ス)			

(所見ハ海軍考課表規則ニ準ジ記入)

(昭和二十年三月十三日祕海軍公報)

○通牒

教育機密第一〇七號

昭和二十年二月二十八日

海軍省教育局長

海上護衛
各鎮守府
大阪、大湊、警備府
參謀長殿

泊地應急巡回講習施行ノ件申進
首題ノ件左記ニ依リ實施セシメラレ候
記

講習項目	指導官	實施日期	講習場		講習員	講習科目
			講習場	講習員		
泊地應急 法	海軍航海學校 校長ハ 海軍航海 教官二 下士官四 乃至六ヨ リナル指 導班ニ組 スルモノ トス	自三月三日	横濱	特設船船	特設船船	
		自三月六日	門司	警戒部及 各特設船	警戒部及 各特設船	
		自三月九日	若松	警戒部及 各特設船	警戒部及 各特設船	
泊地應急 指報法	同上	自三月十日	大湊	警戒部及 各特設船	警戒部及 各特設船	
		自三月十三日	神戶	警戒部及 各特設船	警戒部及 各特設船	
		自三月十六日	室蘭	警戒部及 各特設船	警戒部及 各特設船	

一 講習地以外ノ地ヨリ派遣ノ講習(應講)員ニ對スル旅費ハ昭和十八年官房經第七號ニ依リ請求ヲ俟テ別途配付セラル

二 講習指導官派遣ニ要スル旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付セラ

三 講習地官民關係者ノ講習参加差支ナシ

艦本機密第一一號ノ三三七七

昭和二十年三月七日

海軍艦政本部

關係各廳御中

内國監督官事務所出張所ニ書類送付ノ件通知
當リ或モノハ本事務所ヲ經由シ或モノハ直送スル等區々ニ互ル
ツアル狀況ニ鑑ミ此ノ種ノ書類ハ出張所又ハ分室ニ直送スルト
共ニ要スレバ之方寫シ本事務所ニ送付相成度

○雜款

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
第七十八號海防艦 機務員事務所	川崎重工株式會社泉 洲分工場内	二月八日		
第三百三十五號警 隊	京都府福知山市	三月一日	假設福知山 四一番	三月一 日移轉
海防衛生野裝員 事務所	神奈川縣横須賀市谷戸 六番地浦賀船渠株式會 社浦賀造船所内	三月三日		

○轉勤者旅行先
自今當隊ヘノ赴任轉勤者ハ左記ニ依リ旅行セシメラレ度
但シ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ吳市ナリ爲念

秘海軍公報 第四九五六號 昭和二十年三月十三日

二七一

山口縣岩國市海上路(山陽本線藤生驛下車徒歩約二杆)

(第三千百十一設營隊)

○正誤

三月六日附秘海軍公報四九五〇號通牒欄二四四頁經給機密第三

一號總員名簿送付ノ件第二號(中)及海軍省人事局長「ハ」海軍省人事局長「ノ」文官同待遇者判任待遇以上「ハ」文官同待遇者及判任待遇以上「ノ」孰正誤

合同海軍葬儀執行

期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場	所	記事
三月十六日 〇九三〇	故海軍大佐野間 徹外諸勇士	高松地方海軍人事部長	高松市縣公會堂	佛式	
三月二十日 一三〇〇	故海軍軍醫中佐田村勉外諸勇士	熊本地方海軍人事部長	熊本市公會堂	同	

秘

海軍公報

第四九五七號

昭和二十年三月十四日(水)

海軍大臣官房

○告示

海軍省告示第一號ノ八
第五航空艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク
昭和二十年三月十日

海軍大臣

○令達

内令第二〇五號
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス
昭和二十年三月五日

海軍大臣

驅逐艦、一等松型ノ項中「矢竹」ノ下ニ「菱」ヲ加フ
潜水艦、一等伊二百一型ノ項中「伊號第二〇七」ノ下ニ「伊號第二〇八」ヲ加フ
海防艦、御藏型ノ項中「竹生」ヲ削リ、「渡太」ノ下ニ「大津、友知」ヲ、同鶴來型ノ項中「屋久」ノ下ニ「竹生」ヲ、「生野」ノ下ニ「蔚美」ヲ、同第一號型ノ項中「第百七號」ノ下ニ「第百十七號」ヲ、「第百二十九號」ノ下ニ「第百三十五號」ヲ、同第二號型ノ項中「第六十八號」ノ下ニ「

第七十號」ヲ、「第七十八號」ノ下ニ「第八十號」ヲ、「第九十八號」ノ下ニ「第百號」ヲ、「第百二號」ヲ加フ
輸送艦、二等第百一號型ノ項中「第百七十三號」ノ下ニ「第百七十四號、第百七十五號」ヲ加フ
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第二〇六號
特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス
昭和二十年三月五日

海軍大臣

特務艇、魚雷艇第十號型ノ項中「第十八號」ヲ削リ、同第五百三十八號型ノ項中「第五百五十三號」ノ下ニ「第五百五十四號、第五百五十五號」ヲ加ヘ、同項中「第八百九十五號、第八百九十六號、第八百九十七號、第八百九十八號、第八百九十九號、第九百號、第一千一百號、第一千二百號、第一千三百號、第一千四百號、第一千五百號、第一千六百號、第一千七百號、第一千八百號」ヲ、同百一號型ノ項中「第三十七號、第三十八號、第三十九號、第四十號、第四十一號、第四十二號、第四十三號、第四十四號、第四十五號、第四十六號」ヲ削ル
(内令提要卷三、四三頁參照)

秘海軍公報 第四九五七號 昭和二十年三月十四日

二七三

1706

内令第二〇七號

第五百五十六號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第五百五十六號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月八日

海軍大臣

官房軍第一二四號

昭和十九年官房軍第九五七號昭和十七年勅令第五百五十二號ニ依ル海軍監獄及同分監ノ所屬、名稱及位置ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月十日

海軍大臣

表中「第四南遣艦隊」ヲ「第二十五根據地隊」ニ改ム

(内令提要卷一、四二頁参照)

官房艦機密第七號ノ二四

昭和二十年三月十二日

海軍大臣

各鎮守府司令長官
大湊、大阪、警備府司令長官
領海、高雄 殿

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊兵器簿砲術長主管之部申左記ノ通改正ス

記

區分	類別	品名	改正定數	雜記	記事
改正	小銃	三八式小銃彈藥包	一八〇個		
同	同	九九式小銃彈藥包	九〇個		
同	拳銃	拳銃彈藥包	二四個		
				銃一挺ニ付	數量改正

官房經第一一六號

海軍省所管一般會計、海軍工廠資金會計、海軍火藥廠作業會計及海軍燃料廠作業會計歳入歳出科目表別冊ノ通定メ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別冊ハ海軍省經理局長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和二十年三月十二日

海軍大臣

官房軍第一二六號

昭和十九年官房軍第一一五八號(海軍兵學校ノ分校呼稱等ノ件)申左ノ通改正ス

昭和二十年三月十三日

海軍大臣

第二項中「身上」ノ下ニ「其ノ他分校ニ於ケル一般事務」ヲ加フ
 (諸例則卷一、五〇八頁參照)

官房經機密第一六四號

臨時軍事費特別會計歲入歲出科目表中左ノ通改正シ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年三月十三日

海軍大臣

一 解 說

一符號中「○印ハ昭和十九年四月一日以降使用セザル科目」ノ前ニ「◎印ハ昭和二十年四月一日以降使用セザル科目」ヲ加フ

二 歲出科目

(イ) 設置科目

款	項	目	節	解説	會計科目 電信略號
(臨時軍 事費)	(臨時軍 事費)	(研究費)			
		(物資特別 購入諸費)	燃料研究費		カ
			準備購入費		タ モ

(ロ) 使用セザル科目

秘海軍公報 第四九五七號 昭和二十年三月十四日

三 解 疏

應費(目) 通信運搬費(節) 中「運信省」ヲ「運輸通信省」ニ、雜給及雜費(目) 豫備員候補者手當(節) 中「第五十一條及第五十一條ノ二」ヲ「第四十四條及第四十四條ノ二」ニ改メ、同(目) 諸手當(節) 中「明治三十八年勅令第七十九號ニ依リ給スル召集手當」及「海軍戰時特例給與規則」ニ依リ給スル臨時手當」ヲ、艦營費(目) 運搬費(節) 中「運搬荷造請負費、保險料等ノ類」ノ前ニ「艦船部隊其ノ他軍隊組織ノ各部及特ニ指定セラレタル各艦ニ於テ要スル分以下同ジ」ヲ加ヘ、同(目) 雜給(節) 中「艦船部隊其ノ他軍隊組織ノ各部及特ニ指定セラレタル各艦ニ於テ要スル分以下同ジ」ヲ、同(目) 雜費(節) 中「損害補償積内規ニ依ル被害補償費」ヲ、教育諸費(目) 中「病院練習部」ヲ削リ、同(目) 備品消耗品費(節) 中「工賃共」ノ下ニ「教育局ニ於テ要スル教育圖書調製費」ヲ加ヘ、同(目) 通信運搬費(節) 中「運信省」

款	項	目	節	解説	會計科目 電信略號
(臨時軍 事費)	(臨時軍 事費)	◎海軍火藥 ◎海軍燃料 ◎海軍置運 ◎海軍置運 ◎海軍置運 ◎海軍置運			イ イ イ イ

「運輸通信省」ニ改メ、營繕費(目)機械費(節)中「初度調
 辨費共」ノ下ニ「艦政本部關係及航空本部關係ヲ除ク」ヲ加
 へ、船舶應急處理費(目)中「沈没擱座」ノ下ニ「等」ヲ、「應急
 處理」ノ下ニ「及救難」ヲ、占領地民政諸費(目)中「南方
 占領地及海南島ノ民政ニ要スル分(民政會計等ニ對スル繰入
 金共)」ヲ、運輸費(目)中「工員給、」ノ下ニ「工員旅費、」
 ヲ加フ

○通 牒

官房軍第一二七號

昭和二十年三月十三日

海 軍 省 副 官

關係各廳長殿

海軍經理學校分校呼稱ニ關スル件通牒

來三月十五日以降當分ノ開海軍經理學校豫科生徒教育ハ奈良縣
 橿原(奈良縣立畝傍中學校舍)ニ於テ實施シ同施設ヲ部内限リ
 海軍經理學校橿原分校ト呼稱スルコトニ定メラレ候

軍務一機密第一八三號

昭和二十年三月十三日

海 軍 省 軍 務 局 長

關係各廳長殿

部外小運送協力ニ關スル件照會

官民小運送逼迫ノ現状ニ鑑ミ部内貨物自動車ノ運行ニ當リ往路
 又ハ復路ニ於テ餘積アル場合官廳、會社又ハ公共團體等ノ責任
 代表者ヨリノ出願ニ對シテハ積極的ニ之ニ應ゼラレ度内意ニ付
 關係各部ニ於テ可然連絡ノ上右主旨ニ副フ如ク配慮アリ度但シ
 此ノ場合私用ニ供スルコトナキ様充分留意相成度

○難 款

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始 月 日	電 話 記 事
第九十六號海防艦 機裝員事務所	長崎市三菱重工業株式 會社海軍監督官事務所内	三月六日	
第二百二十七號海防 艦機裝員事務所	大崎市西成區北加賀屋町 三浪造船株式會社内	三月一日	
第二十四聯合航空隊 司令部	奈良縣山邊郡丹波町奈 良海軍航空隊内	三月一日	
海防艦高根機裝員事 務所	岡山縣玉野市三井造船株 式會社玉野造船所内海軍 兵舍内	三月三日	

○旅行順路
 當隊ヘノ來隊者ハ北陸本線小松驛乘換小松電鐵鶴川遊泉寺下車
 (徒歩約十五分)

(第三百三十六設營隊)

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報 第四九五八號

○令 達

官房需第四五號

昭和十九年官房需第一四一號中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十四日

海 軍 大 臣

第一號(ハ)ノ二ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ハ)ノ二ノ二 第八表ノ四ノ規定ニ依リ豫備學生及豫備生徒ニ

交付又ハ給與スルモノノ中

(一) 軍衣袴二組ハ一組トス

(二) 夏衣袴及帽日覆ハ交付セズ

(三) 略衣袴一組ハ二組(附著スベキ襟章共)トシ別ニネク

タイ一個ヲ同時ニ交付スルモノトス

(四) 軍帽、軍帽前章及肩章二個(組)ハ夫々一個(組)ト

ス

(五) カラ一四個及三個ハ夫々二個トス

第三號(ロ)ノ三中「豫備練習生及豫備補習生」ヲ「豫備員候補者」

ニ改メ同項ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ロ)ノ四 生徒、下士官、兵及豫備員候補者ニ交付スル襦袢及

袴下ハメリヤス製ノモノヲ用フルコトヲ得

第四號(イ)ノ次ニ左ノ如ク加フ

(ロ) 下士官及兵遺難其ノ他ノ事故ニ依リ被服物品ヲ亡失又ハ

昭和二十年三月十五日

海軍大臣 官房

20.3.22

毀損シタルトキ分隊長ニ於テ證明書ノ作製困難ナル場
海軍給與令施行細則第九條ノ規定ニ拘ラズ主計長(主計
長ナキトキハ兵備品取扱主任タル者)之ヲ作製スルコトヲ
得

前項ニ依リ下士官及兵ニ代品ヲ交付スル場合ハ交付證書以
テ領收證書ニ代フルコトヲ得

(參照) 昭和十九年官房需第一四一號ハ被服物品交付等ノ特例ナリ
(會計法規二卷二六六ノ二頁)

○通 牒

官房人第一三八號

昭和二十年三月十四日

海 軍 大 臣

關係各廳長殿

從軍加算ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十七年官房第五六〇五號中左ノ通改正セラレ候

第一號(イ)號ノ(一)乃至(三)ヲ左ノ如ク改ム

(一) 作戰部隊ノ司令部及所屬艦船(特設艦船ニ非ザル徵備

船舶ヲ含ム)部隊ノ勤務員

(二) 告示第十一號第一項及第二項ニ規定ズル地域ニ特設セ

ラレタル各廳

海軍公報 第四九五八號 昭和二十年三月十五日

二七七

1710

(三) 船舶警戒隊員
第二號(イ)號ヲ左ノ如ク改ム

(イ) 適用範圍

左ニ掲グル各號ノ一ニ該當スル者ニシテ帝國內(告示第十一號第一項第一號ニ掲グル地域ヲ除ク)ニ在リテ直接防衛ニ關スル勤務ニ従事シタルモノ

(一) 作戰部隊ノ司令部及所屬艦船(特設艦船ニ非ザル徵備艦船ヲ含ム)部隊ノ勤務員但シ

(1) 兼務者ハ主トシテ當該司令部又ハ艦船部隊ニ勤務スルモノニ限ル

(2) 鎮守府、警備府、海上護衛總司令部等ノ出仕又ハ附ハ當該司令部又ハ艦船部隊ニ勤務ヲ指定セラレ服務シタルモノニ限ル

(3) 補缺員ハ當該部隊内ニ於テ防衛勤務ニ従事スルモノ及從軍加算ヲ付與セラレアル艦船部隊ニ派遣セラレタルモノニ限ル

(4) 陸上勤務ノ文官ヲ除ク

(二) 船舶警戒隊員

作戰部隊所屬ノ文官(艦船勤務者ヲ除ク)ニシテ海軍大臣ニ於テ專ラ直接防衛ニ關スル勤務ニ従事シ特ニ功績アリト認メタルモノ

附則

本令ハ昭和十九年七月十日ヨリ之ヲ適用ス

官房人第一三九號

昭和二十年三月十四日

關係各廳長殿

從軍加算ニ關スル件中改正ノ件通牒
昭和十九年官房人第六一九號中左記ノ通改正セラレ候

第一號適用範圍(イ)號及(ロ)號ヲ左ノ如ク改ム

(イ) 作戰部隊ノ司令部及所屬艦船(特設艦船ニ非ザル徵備艦船ヲ含ム)部隊ノ勤務員

(ロ) 告示第十五號第一項及第二項ニ定ムル地域ニ特設セラレタル各廳ノ勤務員

恩第六一號

昭和二十年三月十四日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

從軍加算ニ關スル件申進
本年官房人第一三八號ヲ以テ改正セラレタル昭和十七年官房第五六〇五號第二號(イ)號ノ(一)中ニハ左記ノ者ヲ含ミ補缺員ニシテ保健班ニ在ルモノハ之ヲ含マザルモノト了知相成度

一 特設警備隊ノ勤務員(昭和十九年内令員第一二八八號、第一三三七號及第一六五三號ニ依ルモノヲ含ム)

二 作戰部隊ニ所屬スル部隊ニ於テ教育中ノ學生、練習生又ハ講習員ニシテ防衛勤務ニ従事スルモノ
 三 作戰部隊所屬ノ艦船部隊ニ於テ新兵教程中ノ者又ハ飛行豫料練習生ニシテ防衛勤務ニ従事スルモノ

恩第六二號

昭和二十年三月十四日

海軍省人事局長

各鎮守府
 各警備府
 海上護衛 參謀長殿

從軍加算ニ關スル件申進廢止ノ件通知

本年官房第一三八號通牒昭和十七年官房第五六〇五號申改正ニ依リ左記申進ハ昭和十九年七月九日限り自然廢止ノコトト了知相成度

記

昭和十九年四月一日附恩第七三號(鎮守府、警備府關係)同 年七月七日附恩第一九〇號(海上護衛關係)

海人二機密第一〇一號

昭和二十年三月十四日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

恩給年敘勳年加算資料ノ件照會申改正ノ件通知
 首題ノ件左記ノ通り了知相成度

海軍公報 第四九五八號 昭和二十年三月十五日

記

- 一 昭和十七年九月十七日海人機密第一〇二號申左ノ通改正ス(別紙) 加算始終期調ノ備考
- 第一號中「内戰部隊及補給部隊」ヲ「鎮守府警備府部隊及海上護衛總司令部」ニ改ム
- 第二號中「外戰部隊、内戰部隊又ハ補給部隊ノ別」ヲ「艦隊鎮守府警備府部隊又ハ海上護衛總司令部等ノ所屬別」ニ改ム
- 第四號及第五號ヲ左ノ如ク改ム
- 四 本調書ハ各艦船部隊、司令部、特設各廳毎ニ作成ノコト
- 五 本調書ハ鎮守府警備府部隊又ハ海上護衛總司令部所屬ノモノニ在リテハ當該司令部ヲ、支那方面艦隊所屬ノモノニ在リテハ同艦隊司令部ヲ經山スルモノトス司令部ニ於テハ艦船部隊提出ノモノヲ一月毎ニ取纏メ要スレバ之ニ加算始終期又ハ加算率ニ對スル意見ヲ附シ送付ノコト
- 二 昭和十七年九月十七日海人機密第一〇三號申左ノ如ク改正ス
- 第二號中「直接作戰ニ參加シタル者」ヲ「三十日以上作戰ニ關スル重要ナル現地勤務ニ従事シタル者」ニ改ム
- 第三號中「内戰部隊ニ屬スル部隊勤務ノ文官」ヲ「作戰部隊所屬ノ文官(艦船勤務者ヲ除ク)」ニ改ム
- 別紙第一ノ表題ヲ左ノ如ク改ム

秘

海軍公報 第四九五九號

昭和二十年三月十六日(金) 海軍大臣官房

○令 達

達第四六號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦一隻、潜水艦一隻、海防艦十隻、輸送艦二隻及魚雷艇二隻ニ左ノ通命名ス、

昭和二十年三月五日

海軍大臣

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 菱 (ヒシ)

第五百五十四號魚雷艇

第五百五十五號魚雷艇

呉海軍工廠ニ於テ建造

伊號第二百八潜水艦

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 蔚 美(ウルミ)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 大 津(オホツ)

海防艦 友 知(トモシリ)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第一百十七號海防艦

株式會社新潟鐵工所ニ於テ建造

第二百三十五號海防艦

日立造船株式會社向島工場ニ於テ建造

第七十號海防艦

第八十號海防艦

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

第二百號海防艦

第二百二號海防艦

川南工業株式會社浦崎造船所ニ於テ建造

第七十四號輸送艦

第七十五號輸送艦

官房第三二號

各鎮守府司令長官及鎮海警備府司令長官ハ海軍部外ノ學校、講習所及養成所ニ在リテ修業中ノ海軍豫備生徒、豫備練習生及豫備補習生ニ對スル保健及防疫ノ指導實施ヲ要スト認ムルトキハ部下軍醫科士官ノ勤務ニ差支ナキ範圍ニ於テ之ヲ行ハシムルコトヲ得
前項ノ場合海軍ニ於テ特ニ必要ト認メタル場合ニ限り補給ニ差支ナキ範圍ニ於テ之ニ要スル治療品ハ最寄海軍病院ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

海軍公報 第四九五九號 昭和二十年三月十六日

二八一

1714

<p>昭和二十年三月十二日</p> <p>海軍大臣</p>		<p>官房人機密第一五七號</p> <p>特修兵養成ニ關スル特例中左ノ通改正ス</p> <p>昭和二十年三月十四日</p> <p>海軍大臣</p>		<p>第十二條中「及在籍領守府司令長官ニ之ヲ報告スベシ」ヲ「及在籍領守府司令長官及海軍省人事局長ニ之ヲ報告又ハ通報スベシ」ニ改ム</p> <p>(昭和十九年九月二十九日本閣參照)</p> <p>官房經機密第一六八號</p>		<p>海軍工廠資金會計、海軍火藥廠作業會計、海軍燃料廠作業會計及臨時軍事費特別會計歳出科目中左ノ通追加ス</p> <p>昭和二十年三月十四日</p> <p>海軍大臣</p>		<p>海軍工廠資金會計</p>							
款	項	日	節	解	疏	會計科目	電信略號	款	項	日	節	解	疏	會計科目	電信略號
(材料物品)	(材料物品)	(附屬諸費)	勤續手	九號ニ依リ給スル分	ア	フ		臨時軍事費特別會計	臨時軍事費	勤續手	九號ニ依リ給スル分	シ	ホ		
								海軍燃料廠作業會計	海軍燃料廠作業費	勤續手	九號ニ依リ給スル分	キ	モ		
								海軍火藥廠作業會計	海軍火藥廠作業費	勤續手	九號ニ依リ給スル分				
<p>官房人第一四三號</p> <p>左ノ各號ニ依リ豫備員タル少尉及同少尉候補生ノ臨時考課表ヲ調製進達スベシ</p> <p>昭和二十年三月十五日</p> <p>海軍大臣</p>								<p>臨時軍事費特別會計</p> <p>臨時軍事費</p> <p>勤續手</p> <p>九號ニ依リ給スル分</p> <p>シ</p> <p>ホ</p>							

1715

一 調製期日

昭和二十年三月二十五日

二 海軍大臣へ進達期限

昭和二十年四月五日

三 調製進達要領

(イ) 豫備員タル少尉候補生ニ付テハ本年六月一日豫備員タル少尉ニ任用スルモノトシテ其ノ適否ニ關スル所見ヲ考課表

人物總評欄ニ附記スルモノトス

(ロ) 廳長ハ海軍大臣ニ直接進達スルモノトス

四 左ニ勤務中ノ者ニ對シテハ前各號ニ拘ラズ特ニ考課報告ノ要アリト認ムルモノニ付四月五日迄ニ所要事項ヲ電報スルノ

外調製進達ヲ要セズ

南東方面艦隊、第四艦隊、南西方面艦隊、第十方面艦隊、海軍警備府部隊其ノ他通信連絡困難ノ離島等ニ在ル部隊、廳

官房人機密第一六三號

所屬長官ハ三月三十一日現在員(特ニ指定ス)ニ付左記標準ニ依リ年度末賞與ヲ支給スベシ但シ本年三月中ニ召集解除、現役滿期又ハ服役延期解止ノ海軍軍人ニ對シテモ右ニ準ジ召集解除、退團又ハ服役延期解止ノ日現在ヲ以テ年度末賞與ヲ支給スルコトヲ得

昭和二十年三月十五日

記

海軍大臣

秘海軍公報 第四九五九號 昭和二十年三月十六日

區分	賞與額(本俸又ハ給料ニ付)
士官、特務士官、候補生、見習官、高等文官、同待遇者及勅任官待遇者、准士官、下士官、列任文官、同待遇者、列任官待遇者、無待遇者、職員及傭人(月給者)	一・〇月分以内
傭人(日給者)	一・五月分以内
兵、上等兵及一等兵	四十五日分以内
兵、長、上等兵及一等兵(昭和十九年十二月一日以後海軍ニ入團又ハ入隊等ノ一等兵ヲ除ク)	一・〇月分以内

備考 傭託者中一時ノ報酬ヲ受クル者及本官職アル者ニ對シテハ支給セザルモノトス

○ 通牒

海人三機密第一〇號ノ二四
昭和二十年三月十五日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

本年年度末賞與支給ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ昭和十九年海人三機密第一〇號ノ四二ニ依ルノ外左記ニ依リ取扱フモノト了知相成度

記

一 各省(廳)職員トシテ專任セラレタル定員外海軍武官ニシテ本年三月三十一日以前海軍ニ復歸シタルモノニ對シテハ其ノ勤務期間ヲ海軍ニ於ケル勤務期間ニ通算シ算出シタル金額

二八三

ヲ現所屬廳ニ於テ支給ス

二 昭和十六年勅令第二百四號ニ依リ部外ノ文官同待遇者ヨリ海軍文官同待遇者ニ轉官職セシメラレタル者及明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官廳ノ定員外ト爲リ海軍ニ勤務セシメラレタル者等(以下臨時職員ト稱ス)ニ對シテハ左記ニ依ルモノトス

(イ) 三月三十一日現在ニ於テ臨時職員タル者ニ對シテハ本賞與ノ全期間勤務セシモノト看做シ其ノ賞與金全額ヲ支給ス

(ロ) 三月三十一日以前海軍ヨリ轉出セル臨時職員ニ對シテハ支給セズ

三 前各號ニ該當スル者ノ中三月三十一日附發令ノ者ニ對シテハ新所屬省(廳)ニ於テ夫々其ノ賞與金全額ヲ支給スルモノトス

醫第二四〇號

昭和二十年三月十五日

海軍省軍務局長
海軍省醫務局長

各領守府 參謀長殿
鎮海警備府

海軍各部ニ在ラザル豫備員候補者ノ保健及防疫ノ指導實施ニ關スル件申進

昭和二十年官房醫第三三二號ニ依ル首題ノ件ハ概ネ左記ニ依リ實施方取計相成度

記

一 保健及防疫ノ指導實施ヲ担當スベキ領守府及警備府
(イ) 高等商船學校等海軍武官配屬表(昭和十八年十月二十日內令第二一九四號)ニ依ル當該學校、講習所又ハ養成所配屬武官ノ所屬スル領守府又ハ警備府
(ロ) 海軍豫備練習生規則第七條ニ依ル在籍領守府又ハ最寄海軍航空隊

二 保健及防疫ノ指導實施方法

前號ノ諸學校、講習所又ハ養成所等ヨリ保健及防疫ノ指導實施ニ關シテ依リタル場合又ハ海軍ニ於テ必要ト認メタル場合海軍病院第三部長又ハ最寄海軍部隊等ノ軍醫科士官ヲシテ勤務ニ差支ナキ範圍ニ於テ保健及防疫ノ一般的指導實施ヲ適宜行ハシムルモノトス

三 前號ノ保健及防疫ノ指導實施ニ際シ必要最小限度ノ治療品ハ最寄海軍病院ヨリ支給スルモ日常診療ニ要スル一般治療品ノ支給ハ行ハザルモノトス

○ 雜 款

內令提要別冊(定員關係)追録第九號(一月三十一日現在)三月十二日發送済ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付相成度

(海 軍 省 副 官)

秘

海軍公報 第四九六〇號

昭和二十年三月十七日(土)
海軍大臣官房

○令 達

内令第一九六號ノ二
昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月二日

海軍大臣

佐伯防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第百三十四號(吳)」ヲ削ル
佐世保防備隊ノ項哨戒特務艇ノ欄「第百六十三號(佐)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一九六號ノ三

第百六十四號哨戒特務艇

右本籍ヲ佐世保領守府卜定ム

昭和二十年三月二日

海軍大臣

内令第一九六號ノ四

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月二日

海軍大臣

第四監視艇隊ノ項中「平和丸」ノ上ニ「第百三十四號哨戒特務艇、第百六十三號哨戒特務艇、第百六十四號哨戒特務艇、」ヲ

加フ

内令第二〇八號
特設船舶警戒部令中左ノ通改正セラル

昭和二十年三月十日

海軍大臣

別表ヲ別表ノ如ク改ム
(別表添)

(内令提要卷一、三八ノ七二頁参照)

内令第二〇九號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十日

海軍大臣

驅逐艦、一等神風型ノ項中「旗風」ヲ、同

ヲ、同松型ノ項中「梅」ノ、同二等栗型ノ項中「梅」

ヲ削ル

潜水艦、一等伊十七型ノ項中「伊號第二十六、」ヲ、伊號第三十七、伊號第三十八、伊號第四十一、伊號第四十五」ヲ、同伊十六型ノ項中「伊號第四十六、」ヲ、同伊五十四型ノ項中

秘海軍公報 第四九六〇號 昭和二十年三月十七日

二八五

1718

<p>「伊號第五十四」ヲ、同「伊百七十六型」伊號百七十七ヲ、同伊三百六十一型ノ項中「伊號第三百六十五」ヲ、同二等呂三十五型ノ項中「呂號第四十七」ヲ削ル</p> <p>砲艦ノ部中「峽峨」ヲ削ル</p> <p>海防艦、御藏型ノ項中「千振」「久米」ヲ、同第一號型ノ項中「第三號」「第十七號、第十九號、第二十三號」「第三十五號」「第四十三號」「第五十一號」ヲ、同第二號型ノ項中「第四十二號」「第三百三十八號」ヲ削ル</p> <p>輸送艦、一等第一號型ノ項中「第七號」「第十四號、第十五號」ヲ、同第二號型ノ項中「第七號」「第十四號、第十五號」「第三百二十九號、第四百十號」「第三百五十一號、第三百五十四號、第五百五十七號」ヲ削ル</p> <p>掃海艇、第一號型ノ項中「第五號」ヲ、同第十九號型ノ項中「第三十八號」ヲ、同部中「第一百二號」ヲ削ル</p> <p>驅潜艇、第十四號型ノ項中「第十八號」「第三十一號」「第六十一號」ヲ削ル</p> <p>敷設艇、測天型ノ項中「山利島」ヲ削ル</p> <p>哨戒艇、第三十一號型ノ項中「第三十八號」ヲ、同部中「第三百三號」ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、三三頁参照)</p> <p>内令第二一〇號</p> <p>特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス</p>	<p>昭和二十年三月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>運送艦ノ部中</p> <table border="1"> <tr> <td>洲崎型</td> <td>洲崎</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>野崎</td> </tr> </table> <p>ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、四二頁参照)</p> <p>内令第二一二號</p> <p>特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス</p> <p>昭和二十年三月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>特務艇、魚雷艇第四百六十九號型ノ項中「第八百十九號」「第八百二十九號、第八百三十一號」「第八百三十三號」「第八百三十六號」ヲ、同十號型ノ項中「第七十一號」ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷三、四三頁参照)</p> <p>内令第二一二號</p> <p>特設海軍經理部令中左ノ通改正セラル</p> <p>昭和二十年三月十日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第二條中「艦隊又ハ特設警備府ニ屬シ」ヲ削ル</p> <p>第五條及第七條但書中「艦隊司令長官又ハ特設警備府司令長</p>	洲崎型	洲崎				野崎
洲崎型	洲崎						
		野崎					

1719

官」ヲ「所屬ノ司令長官又ハ司令官」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ一七頁参照)

内令第二一三號

特設海軍病院令中左ノ通改正セラル

昭和二十年三月十日

海軍大臣

第三條中「艦隊又ハ特設警備府ニ屬シ」ヲ削ル

第五條及第八條但書中「艦隊司令長官又ハ特設警備府司令官」ヲ「所屬ノ司令長官又ハ司令官」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ三五頁参照)

内令第二一四號

特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改正セラル

昭和二十年三月十日

海軍大臣

吳鎮守府ノ部中「第四南遣艦隊」ヲ「第二十五根據地隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ四〇頁参照)

内令第二一五號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十日

海軍大臣

第百四海軍經理部ノ項中「所屬艦隊其ノ他所在地方面」ヲ「所在地方面ニ於ケル」ニ、「所屬艦隊」ヲ「所屬特設根據地隊及其ノ所屬」ニ、「第百四海軍建設部ノ項中「艦隊司令長官」ヲ「司令官」ニ、「第百四海軍病院ノ項中「所屬艦隊其ノ他」ヲ「所在地方面ニ於ケル」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ四八頁参照)

内令第二一六號

戰時艦船大修理實施規程中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十日

海軍大臣

第五條表中「海防艦」ノ次ニ「輸送艦」ヲ、「驅潜艇」ノ次ニ「救設艇」ヲ加フ

(内令提要卷三、一二三ノ七頁参照)

官房第一一九號

舊第十八號魚雷艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船名、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム

昭和二十年三月五日

海軍大臣

船名	船種	所屬	定數	別記	事項
第廿二號雷艇	内火艇	橫須賀潜水艦基地隊(第十一突擊隊供用)	臨時附屬	舊第十八號魚雷艇	

官房第一三一號
 吳海軍工廠保管中ノ内火艇三隻ヲ雜役船ニ編入シ其ノ公稱番
 號、船種、所屬等ヲ左ノ通定ム
 昭和二十年三月十五日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數別	記事
第一六七號	内(九火艇)	吳海軍港務部	臨時附屬	吳海軍工廠保管 (M三九)
第一六八號	同	同	同	同 (M三〇)
第一六九號	同	吳海軍運輸部	同	同 (M三六)

○遊牒

軍務三機密第一二〇號

昭和二十年三月一日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

隱退藏物資戦力化ノ實施ニ伴フ物資統制令ニ
 依ル臨檢検査ニ關スル件照會

首題ニ關シ別紙各地方長官宛軍需次官通牒ノ通臨檢検査權軍需
 大臣ヨリ各地方長官ニ委任セラレ隱退藏物資戦力化強力推進期
 間中必要ニ應ジ物資統制令第二十條ノ規定ニヨリ臨檢検査實施

セラルコトト相成候條了知ノ上可然取計相成度

(別紙)
 二〇總第七〇七號
 昭和二十年二月二十四日

軍需次官

各地方長官(樺太廳長官、東京
 都長官及沖繩縣知事ヲ除ク)殿
 警視總監

隱退藏物資戦力化ノ實施ニ伴フ物資統制令ニ
 依ル臨檢検査權ノ委任ニ關スル件通牒

隱退藏物資ノ戦力化ニ關シテハ「隱退藏物資ノ戦力化ニ關スル
 件」(別紙第一)ニ基キ來ル三月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル間
 〇隱退藏物資戦力化強力推進期間「設置要綱」(別紙第二)ニ依
 リ之ヲ實施ヲ特ニ強力ニ推進スルコトト相成クルニ付テハ右期
 間中ニ於テ必要ニ應ジ物資統制令第二十條ノ規定ニ依リ臨檢檢
 査ヲ實施シ隱退藏物資ノ動員ヲ確保徹底セラレ度依命通牒ス
 追テ臨檢検査ノ實施ニ當リテハ關係地方隱退藏物資戦力化協
 議會及關係各廳現地關係官ト緊密ナル連絡ヲ保持シ之ヲ運用
 ノ萬全ヲ期セラレ度尙物資統制令第二十條第二項ノ證票ハ別
 記様式ニ依ラレ度
 (別紙第一及第二省略)
 別記様式(別紙ノ大キサハ日本標準規格A7トシテ
 中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス)

(表面)

物資統制令第二十條ノ規定ニ依ル證票

(裏面)

第 號 昭和 年 月 日交付

官職 氏名
府縣ノ印

國家總動員法第三十一條……「左記ニヨリ記入」

記

國家總動員法第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ

秘海軍公報 第四九六〇號 昭和二十年三月十七日

命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

國家總動員法第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

物資統制令第二十條 主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係者ヨリ統制物資ニ關スル統制又ハ其ノ統制事務ニ付テノ協力ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ、又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舗、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ統制物資、書類、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

物資統制令第二十一條 主務大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監ヲ含ム)又ハ當該主務大臣ノ所轄スル官衙ノ長ニ委任スルコトヲ得

教育機密第一三四號

昭和二十年三月十五日

海軍省教育局長
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長殿
戰車講習員ニ對スル特技章付與ノ件申進

二八九

1722

戰車講習終了者ハ講習終了後二月ヲ經過セバ其ノ無章兵、普砲及高砲特修兵ニ對シ夫々普砲、高砲、特砲ノ特技章（執レモ陸職班）ヲ付與シ得ルコトニ定メラレ候

○ 難 款

○ 隊名改稱

國分海軍航空隊ハ三月一日附觀音寺海軍航空隊トナレリ

（觀音寺海軍航空隊）

築城海軍航空隊富高分遣隊ハ山口縣岩國市岩國航空基地ニ移轉シ三月一日附岩國海軍航空隊ト改稱セラレ築城海軍航空隊富高分遣隊ハ同日附解消セラレタリ

（岩國海軍航空隊）

○ 轉勤者赴任先

三月十日以後當隊ヘノ轉勤者ハ山口縣岩國市岩國海軍航空隊（山陽線岩國驛下車）ニ向ケ旅行セシメラレ度

（岩國海軍航空隊）

（舊築城海軍航空隊富高分遣隊）

第二五二海軍航空隊並ニ所屬飛行隊ヘノ轉勤者ハ左記ニ依リ赴任セシメラレ度

第二五二海軍航空隊
戰團第三〇四飛行隊
戰團第三一三飛行隊
千葉縣長生那茂原航空隊基地
（房總東線茂原驛下車）

第二五二海軍航空隊郡山派遣隊（福島縣田村郡守山町）
戰團第三一六飛行隊（東北本線安積水盛驛下車）
攻撃第三飛行隊 千葉縣匝瑳郡香取航空基地
（總武本線千淘驛下車）
遣テ旅費ハ前金拂トシテ家族移轉料ノ勤務地ハ館山市ニ付爲念

（第二五二海軍航空隊）

○ 本日軍極秘海軍公報第一〇一號（乙配付）發行セリ
配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠

○ 本日海軍公報發行セズ



海軍公報 第四九一八號

昭和二十年二月三十一日(水)

海軍大臣官房

○令 達

達第一九號

大東亞戰爭中當分の開卒業式施行手續第九條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

昭和十九年達第二二六號ハ之ヲ廢止ス

昭和二十年一月二十九日

海軍大臣官房 大臣

(参照) 諸例則卷四、二二三頁及同二二九頁

内令第六六號

第四百四十五號輸送艦

第四百四十六號輸送艦

第四百四十七號輸送艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

内令第六七號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月二十五日

第七驅逐隊ノ項中「瀨」ノ下ニ「響」ヲ加フ

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第六八號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

第二輸送隊ノ項中「第三百三十七號」ノ下ニ「第四百四十五號、第四百四十六號、第四百四十七號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第六九號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 久賀

佐世保鎮守府在籍

第二百十九號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

秘海軍公報 第四九一八號 昭和二十年一月三十一日

一〇五

1724

昭和三十二年一月二十五日

海軍大臣

内令第七〇號

汽船 華山丸

右特設砲艦トシ佐世保鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

昭和三十二年一月二十五日

海軍大臣

内令第七一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

第四十一警備隊ノ項驅潜特務艇ノ欄ニ「第六十六號(佐)」ヲ加フ
第八十一警備隊ノ驅潜特務艇ノ欄「第六十六號(佐)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第七二號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

船名	特設艦船種別	所管
汽船 第三十一郵船丸	特設驅潜艇	佐世保鎮守府
同 華山丸	特設運送艦	

内令第七三號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項特設驅潜艇ノ欄「第五赤倉丸(佐)」ヲ「第三十一郵船丸(佐)」ニ改ム

第三十一特別根據地隊ノ項特設掃海艇ノ欄「第五十六播州丸(舞)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第七四號

汽船 第五赤倉丸

右特設驅潜艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

同 第五十六播州丸

右特設掃海艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年一月二十五日

海軍大臣

官房經機密第六〇號

海軍軍用郵便所ノ設置ナキ地ノ海軍部隊等ニ在リテハ所在郵便局ノ過剩金ヲ海軍經費ニ振替フルコトヲ得

之ヲ振替手續ニ關シテハ昭和十六年官房機密第二八〇一號ノ二海軍軍用郵便所過剩金ヲ海軍經費ニ振替手續ヲ準用ス

昭和二十年一月二十二日

(参照) 海軍機密會計法規類集八九頁

○通牒

教育第一八號

昭和二十年一月二十九日

海軍省軍務局長
海軍省教育局長

關係各廳長殿

卒業式施行手續ニ關スル件申進

首題ノ件現時局ニ鑑ミ當分ノ間左記ニ依リ施行ノコトニ定メラレ候

記

海軍各學校及海軍航空隊ニ於ケル卒業式ハ特ニ皇族ノ御差遣ヲ仰グコトナク校内限りニ於テ極力簡素ニ行フコトトシ分校ニ於テ教育中又ハ他廳ニ派遣教育中ノ者ニ對スル卒業申渡式及御下賜品ノ傳達ハ成ルベク校長、分校長又ハ派遣教育廳ノ首席將校之ヲ行フコトトス

海人三第二號ノ九

昭和二十年一月三十日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

秘海軍公報 第四九一八號 昭和二十年一月三十一日

特設海軍病院等ニ入院シタル下士官及兵ノ人事取扱ニ關スル件自然消滅ノ件通知

本年達第七號ヲ以テ海軍下士官兵身上取扱規則改正ニ伴ヒ昭和十九年海人三第三號ノ六三首題ノ件ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

(諸例則卷二、三〇二頁参照)

海人三機密第二號ノ一四

昭和二十年一月三十日

海軍省人事局長

各所轄長殿

兵進級比率等ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十九年海人三機密第二號ノ四六通牒ニ依ル首題ノ件中左記ノ通改メラレ候

記

一 第一、一、(ロ)中「海軍大臣ノ訓令ニ基ク」ノ下ニ「期間一月以上ノ」ヲ加フ

二 同(4)中「五〇%以内」ノ下ニ左ノ如ク加フ

但シ考課表及任用進級抜擢(候補)名簿取扱特別第十三條ニ該當スル者ハ所轄長ノ認ムル所ニ依リ一〇〇%以内ト爲スコトヲ得

(内令提要卷二、八ノ一頁参照)

軍需機密第五〇號

昭和二十年一月二十九日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

番號ヲ冠スル航空隊ノ艦營需品取扱ニ關スル件申進

首題ニ關シ客年八月三十日軍需機密第五一八號ニ依リ申進致置候處諸般ノ情勢ヲ勘案シ番號航空隊ニシテ基地航空隊ノ任務ヲ兼ヌル特殊航空隊ニ對シテハ當分ノ間前記ノ申進ニ不拘定額表ヲ制定セラレベキニ付自今之ニ依リ處理相成度尙既設航空隊ニシテ最近内地近海護衛關係航空隊ニ改編セラレタルモノハ該隊ノ定額表ヲ表名改正ノ上其ノ儘襲用セシメラルルヲ以テ之ガ取扱ニ關シ要スレバ各基地ハ昭和十七年一月二十六日官房機密第一一〇號訓令ニ依リ夫々兵備品取扱主任ヲ任命シ處理ノコトニ取計相成度

(參照) 艦營需品取扱例規一八二ノ四頁

○雜 款

○移轉

當本部第三部第二課ハ一月二十六日芝區田村町一丁目(元日産館)ニ移轉シ即日事務ヲ開始セリ

(海軍航空本部)